



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No.139

「もっとシンプルにやろうよ」第15回AA日本全国評議会

2010年2月12日(金)~14日(日)

川崎グランドホテル

川崎市川崎区宮本町6-2

1995年の全国代議員集会で採択された評議会・常任理事会機構が活動を始め15回を迎えることになりました。

各地域から選出された評議員と常任理事によってこれからの日本のAAの方針を定める会議が行われます。

評議会プログラム

1日目

12:30 第1回全体会議

開会 オリエンテーション

13:40 第2回全体会議

常任理事選出選挙、WSM評議員選出選挙

2009年度事業報告および決算、常任理事信任投票

15:10 第3回全体会議

2010年度事業計画、予算提案、質疑応答

19:30 第4回全体会議

2010年度事業計画、予算提案、質疑応答

20:00 評議員会

担当委員会以外への要望、質問などを協議

2日目

09:00 各委員会

事前、当日配布資料、前日の提案議題などを審議

13:00 WSM評議員報告

WSM、AOSMについて報告

13:30 地域報告

各地域現状報告 「もっとシンプルにやろうよ」

15:30 ディスカッション・ミーティング

「謝礼金に関する各地域の分かち合い」

「なぜサービスに携わるメンバーが少ないのか？」

(メッセンジャー不足も含んで)

20:00 第5回全体会議

各委員会の報告と提案・勧告等の審議

3日目

09:00 第6回全体会議

各委員会の報告と提案・勧告等の審議

13:00 第7回全体会議

2010年度予算の審議

以上のスケジュールが予定されています。

内容についてのご質問、その他のどのようなことでもご遠慮なく評議会事務局までお問い合わせください。

評議会事務局

第3回AA全国矯正・保護施設フォーラム

矯正・保護施設担当常任理事 林

関西地域担当のこのフォーラムは、10月18日、京都本能寺ホテルで開催された。

前日のプレフォーラムは座席の設定もよく配慮されて、分かち合いというAAの雰囲気によくなじんでいて、全国の矯正に関する分かち合いが充分できたと思う。

特に“謝金”(施設がメッセージに来てくれた人たちに渡してくれる経費相当分をこう呼んでいるが)についての分かち合いは各地域の方々に、そのことについて手短かに語っていただいた。受け取っている所、いない所があるが、解決の方向性を示さない、ただひたすらに分かち合うことだけを心掛けてみた。各地域、各メンバーがそれぞれどうすればいいか胸のうちで考えたことと思う。

翌日のフォーラム当日も構成がよく素晴らしいフォーラムだったと思う。パネルディスカッションもたっぷり時間がとれてとてもよかった。

しかし途中、“認知療法”とか“マトリックス”などのあまり聞きなれないテーマにかなりの時間がとられてしまい、それについての一部の専門家間での質疑に時間が割かれてしまったことは残念であった。

“AA”のパネルディスカッションということ、今後司会者(実行母体)は銘記すべきと思う。

パネルディスカッションでのQ&Aコーナーでは、前もって質問票が配られて、その内容にしたがって、質問とパネラーからの話しを効果的に聞くことができた。第2回(島根)の時は、質問票は配られなかった。一長一短があると思うが今回は質問票の配布が生きていたと思う。

二人のメンバーが過去どうであって、何が起って、今どうなのかを、矯正ということに焦点を合わせて語った個人の物語は、今回のハイライトとなった。すべてのAAメンバーがお酒からの離脱を獲得した今、アルコールのない生き方の素晴らしさを実感したことと思う。

関連する専門家の話では、お1人は第2回にも話していただいた方だったが、視点を変えて矯正との関係で私たちが気をつけていかなければならないことを親しくAAに話しかけていただいているようでありがたかった。

医師の話も、アメリカの矯正施設や本人との回復のかかわりに触れて熱心に聞くことができた。

終わりに、今回際立っていたことは関西地域の矯正関係者の出席がとても多かったことだ。実行委員会がこまめにこのフォーラムを広報し、関連の専門家も協力し広報してくれた結果だと思う。したがってこのフォーラムはパブリックミーティング的な側面も抱いていたと思う。

常任理事就任にあたって

B 類（アルコールク）常任理事 服 部

こんにちは皆さん。小林氏の平成21年9月13日 B 類常任理事辞任にともない、このたび残任期を任されることになりました服部と申します。AA 日本ニューズレターの誌面をお借りしてごあいさつ申し上げます。

ニックネームはエビフライといいます。ホームグループは埼玉県東地区の浦和グループです。海なし県ですから淡水のエビかも知れません。

よく聞かれることを先にご説明したいと思います。精神病院に入院時、肺炎のために油物が禁食、なのに間違っって配食されたエビフライ。素早く見つけた看護師さんが「苦しむから食べちゃ駄目よ！」って。そんなこと言われましても、数ヶ月間も食べてない油物が目の前に鎮座ましているのです。看護師さんが確認に戻っている間に当然食べてしまいました。幸いなことに痛みもなく、夜はAAに行き病院に戻ると、先ほどの看護師さんがカチャと閉鎖病棟を開けた時に「服部さんAAのニックネーム決めたの？エビフライってどうですか？」食い意地が張っていた私にとってのなずけ親が決まった瞬間でした。その時のM看護師さんを始め皆さんのおかげで退院後12年、お酒から遠ざかっています。ニックネームについてはこんないきさつがありました。

私は埼玉県生まれで今年55歳になりました。両親は他界しましたが父も問題ある酒飲みでした。それでも母に言わせると「お前は父親以上だ！」そうです。中学生から30年間の飲酒で大腿骨・上腕骨頭壊死、肝硬変、糖尿病など病気を抱えてしまい、父から継いだ飲食業もできなくなりました。

やっとの思いで入院した精神病院でもかなりてこずらせたようで、担当の先生から「とうとう入院中に信頼関係ができませんでしたね」と診察拒否を申し渡されました。それでも意地でAAに行っていました。会場ではメンバー全員が肝硬変ではないことや、骨頭壊死の人も少ないことに驚いたものです。皆さん俺ほど体が悪くないのに良く止める気になったなあ。「ならば俺はどうなのか？」人ごとのようですが、仲間と比べることで自分が置かれている待たなしの状態に気づくことがようやくできて、お酒を止められたのだろーと思います。

そして日一日ずつ楽になっていく中で少しずつサービスに関われるようになりました。埼玉県は現在3地区に分かれまして、それぞれがサービス活動に熱心に取り組んでいる県です。私も自然にグループの役割から始まり、仲間の中で活動させてもらいました。関東甲信越地域委員会は毎月最終の週末に東京の佃（佃煮の発祥地）で行なわれています。埼玉地区の副委員長の時から参加させてもらい、地域委員会、矯正委員会など入る部屋や地区委員、評議員、矯正委員と役割は変わってきましたが現在も続けて関わらせてもらっています。

評議員は代理を含めて3年間経験させていただきました。評議会に初参加した年は右も左も分からずただ時間が過ぎていきましたが、活発に発言する仲間が大いに影響を受けたものでした。その後も全国の仲間から経験を

分かち合ってもらっています。又評議員時代には関東を含め各地に行く機会をいただき、行動範囲が広がると共に多くの仲間と出会うことでさまざまな事柄についての理解を深めることができました。

来年の2月12日から3日間、常任理事として第15回 AA 日本全国評議会に出席いたします。今回も多くの議題が提案されています。皆さまに助けをいただきながら、より良い方向を目指して行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

小林理事の辞任に伴う補充選挙が行なわれ、服部氏の立候補（1名のため信任投票）、信任が決定いたしました。

前理事の残任期（～2010年3月）の執務となりますが、同氏の再選を妨げられることはありません。

地域からのお知らせ



仲間の力と愛を再認識した

CHCO開設20周年記念集会

記念集会実行委員長 シゲル

去る11月8日(日)、名古屋市総合社会福祉会館研修室において AA 中部北陸セントラルオフィス(CHCO)の開設20周年を祝う記念集会が開かれました。

中部北陸地域内で日本人のためのAAミーティングが始まったのは1983年6月。(春先だったという人も)愛知県刈谷市でのことです。その年9月には名古屋インターグループとしてオープン・スピーカーズ・ミーティングを、翌年にはレクリエーションイベントを開くなど少ない人数でありながら意欲的に活動を広げていきました。また、AAの活動は福井・富山・静岡へとしだいに中部北陸全域に浸透していきました。

携帯電話などない当時、自宅に電話をかけることもはばかられ、用件があるときはミーティング場に出向くしかありませんでした。また、私が入院し、現在もメッセージを運び続けている病院のワーカーさんは「当時、AA

のメッセージをもらおうと思ってどこへ連絡してよいかかわからず、開所してまもない中間施設に電話して来てもらった。」と語っています。

「連絡場所としてのオフィスをつくろう」という熱い思いで、1988年7月セントラルオフィス準備委員会が発足しました。お金をためよう、部屋を探そう。交通の便のよい所、中部北陸地域内のどこからでもそんなに遠くない所。「アパートはだめだ。夜にメンバーが大勢出入りすると怪しまれる。」いろいろな意見が出され、資金も集まり、1989年10月、ついに名古屋市北区の賃貸ビルの一室にオフィスが開設されました。

オフィスといっても名ばかり。部屋には留守番電話1本。日曜・祝日にメンバーがボランティア当番に入るといったものでした。それでもオフィス運営に意欲を燃やす当時のメンバーは、オフィス運営委員会をすぐに発足させました。当時のオフィスは「CCO(中・セ・オ)」と呼ばれていました。

開設1年後、1990年11月に初めて職員さんを迎えました。週3日/1日3時間で、メンバーのボランティア当番はまだ必要なものでした。

1991年11月、オフィスの略称を「CHCO(中・北・セ・オ)」に変更。1993年に地域内関係者への発送開始。1994年4月には中部北陸地域だより「こうさてん」(年2回、2001年まで)を創刊。1995年3月には第1回CHCOフォーラムを開催。AA内外に向け情報の発信が本格化。オフィスの存在とその意義を広く知ってもらう活動に取り組みました。

また、開設当時は会計係が献金等の収入とオフィス経費を含めた支出をすべて扱っていましたが、1993年には財務委員会が発足。財務収支を取り扱うとともに、財務フォーラムを開くなどして献金の意義を訴えました。やがてAAのサービス機構と地域のオフィスは別物という考えが定着し、1997年1月に地域財務とオフィス会計が正式に分離。以降、オフィスへの献金呼びかけ・運営などは運営委員会がすべて担うことになりました。

21世紀に入りCHCOはさらに成長へのステップを進めます。AAグループの意見をもっと直接的に取り入れオフィス運営をより確固としたものにするために2002年1月オフィス委員会が発足。8月にオフィス集会を開き新たな定義で運営委員を選出しました。また、個人名義ではありませんが集会で選出されたオフィス代表を届け出、いろいろな規約を整備し、社会に向けて正式なオフィスとして一歩踏み出しました。長年にわたり日曜・祝日のオフィスを預かってきたボランティア当番は、2003年5月にその任を終えました。

順調な船出かと思われましたが、オフィスの賃貸契約の名義人となっていた仲間の急死により、契約解除・返金される保証金は急死した仲間の家族のもとへ、という一歩手前までいきました。ご家族の、そしてビルオーナーのご好意により契約はなんとか継続できることになりましたが、個人契約の限界を強く感じ、2008年7月法人化検討部会が発足。1年余の歳月をかけ、今年10月のオフィス集会にて法人化設立委員会の設置を承認。法人化の最終段階に進みました。

記念集会では、この20年を2人のメンバーの話でふ

り返りました。ゲストとしてお招きした初代CHCO職員であり現在4代目の職員でもある外山さんからも当時の思い出や職員としての苦労話などを話してもらいました。東京からお招きしたJSO職員(前所長)の野崎さんからはAA日本が7地域に分けられた歴史から始まり、JSOのNPO法人化の経験からCHCOは一般社団法人でもよいのでは、という提案まで幅広く話していただきました。

会場に掲げられた古い資料に当時を懐かしむメンバー。CHCOにそんな歴史があったのかと話に耳を傾ける新しいメンバー。テーブルには手作りのお祝いケーキや持ち寄られた食べ物が並び(もちろん実行委員会でも用意しましたが)、これまでCHCOを支えてきた、そしてこれからもCHCOを支えていこうとする仲間の力と愛を改めて感じた一日でした。

北東北の集い

岩手山麓ミーティング ゆうじん

10月24日(土)、25日(日)、北東北の集いが岩手山青少年交流の家で開催されました。今回で4回目になります。催しの運営に関わった私は今、去年の同じ集いに地元の病院から参加してくれた仲間と一緒に岩手山麓ミーティングを続けています。今回の集いの前に二人とも退院されました。いよいよグループの誕生が射程に入ってきたようで、これもこの集いの恵みです。運営に関わったといっても開催前日に準備できたのは記念品と参加者名簿、コーヒー、ティラミス、そしてスリッパ(例年借りていたところが都合がつかず急遽購入しました)くらいです。そして大きな問題は一体性もとの実行委員会設置ができないこと、継続性を考えていかななくてはならないと考えました。でもこれを続けてゆくプロセスが、いつかこの問題を実現させてくれると思うようになりました。参加できなかったけど集いの案内を作ってくれた仲間、新しい仲間と共に参加した仲間、司会をした仲間、参加中止を余儀なくされてしまった仲間、そんな北東北の仲間がいたのですから……。

今回の新しい試みとして、準備のために前日から泊り込むことをしました。人数は少なかったものの、いろいろな準備などもできたこと良い経験となりました。

朝早くからやってきた仲間たちの協力で集いは滑り出し、なんとかなるもんだと安堵したところに想定外の司会を命じられ慌ててしまいました。

オリエンテーションの前には、偶然見かけた岩手県のレクリエーション協会の方に、小さなゲームをしていただけたことができました。「私に負けてください」という集団ジャンケンゲームでした。なんだか、人に負けるという選択肢のない自分が浮き彫りになったようでした。「私たちは何ものとも、誰とも、ましてアルコールとも戦うことをやめた」はずだったのに……。

各種のミーティングが始まりようやく落ち着いてきたようです。音楽室では北上夜曲や回復を歌うという合唱を楽しむ仲間たちの歌声が楽しそうでした。

夜食やおやつも準備万端と思っていたら、仲間の差し入れをすっかり忘れてしまい、お土産に渡す羽目に……

申し訳ありませんでした。

未明に仲間の具合が悪くなり、救急車搬送、幸い一命は取りとめ、入院のために集いの参加中断を付き添いの仲間と共に余儀なくされました。無理をして参加してくれたようで、ちょっと胸が熱くなってしまいました。間もなく退院できるとのことで安心してあります。

朝からは分かち合いがシャワーのように降り注ぎ、なんだかホッとできました。

こうして何とか無事に集いを終えることができました。振り返ると、AAからいただいた「おもてなし」の気持ちだけで臨んだ集いでしたが、逆にもてなされていたんだなあと感謝を新たにしています。その「おもてなし」を忘れ、参加していただいた仲間には迷惑をかけてしまったのではないかと考えています、どうぞ広い心でお赦しください。

AA以外の方の参加や協力にも助けられました、岩手県精神保健センターや支援センター、そして精神病院からの参加など次につながってゆく希望が見えたこと何よりと思っています。

この集いの翌日、岩手山麓ミーティングに集いに参加してくれた仲間二人が来てくれました。彼らと一緒にバスの停留場の片隅にチューリップの球根を植えました、来春雪が解けた頃にきっと素敵な花が咲くことと思っています。

この出会いを思い出しながら、感謝の原稿を書き終えると妙に外が明るいようなので、表に出ると真っ白な雪の世界になっていました。

どうもありがとうございました！



AAメンバーからの質問が

ニューヨーク GSO アーカイブデスクに到着！

[NY GSO 発行 Marking (アーカイブ便り)
vol.28No1Spring2008 より翻訳、一部転載]

質：「平安の祈り」はどのように AA に広まったのですか？

答：作者についての論争は長年に渡るもので、いまだにはっきりとは分かっていません。おそらく、ラインホルド・ニーバー博士（有名な神学者であり、長いあいだ NY市のユニオン神学校の学部長兼応用キリスト教学の教授を務めた）によるものと思われます。AAとの出会いは、1941年のNYトリビューン紙にこの祈りが掲載されたときのことで、AAの最初の事務局長であったノンアルコールのルース・ホックは一目見てとても気に入ってしまいました。あるスタッフが、その祈りを小さなカードに印刷してAAメンバーに配ってはどうかと思いつきました。1941年6月12日、ルースはワシントンDCの印刷業者であるAAメンバー、ヘンリー・Sに手紙を書きました。

「ある地方紙の切り抜きがとても的を射ているため、NYのメンバーたちは非常に気に入ってしまいました。財布に入れられる名刺サイズのカードとして印刷するには、どのくらい費用がかかりますか？切抜きを送ります。お返事が早いほど助かります」

ヘンリーはすっかり乗り気になり、すぐに返事を送りました。

「……もうじき、印刷されたカードが届くでしょう。この祈りを見つけた人におめでとうと伝えてください。私も、これほど、までにインパクトのある文章を今までに見たことがありません。店に来るAAメンバーたちに見せたら、たちまちコピーを欲しがりました。部数が分からなかったの、とりあえず500枚印刷しておきました。もっと必要であれば知らせてください。ところで、代金はいりませんよ。しらふの今は仕事がありますから」ルースは6月17日に返事を書きました。

「あなたの寛大な対応に、みんな心から感謝しています。ワシントンのメンバーにも気に入ってもらえてよかった。この祈りには、本当に特別な力があるように思えます」

さらに情報が必要な方は、GSOアーカイブまでお問い合わせください。

(訳注：原版には実際の写真が掲載されている)

新刊パンフレット

「セクシュアルマイノリティとAA」

(日本語翻訳版)が発行されました。

JSO 出版局

ゲイ/レズビアンなどのセクシュアルマイノリティのアルコールを対象としたものです。マイノリティ(少数)ゆえに、広報やメッセージに活用できる出版物が必要という声によって作られました。

みなさまのご理解とご協力に感謝いたします。

価格は200円で頒布いたします。

編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休